

看護師だから
できるケア

家族看護 救命救急センターの取り組み

聖マリアンナ医科大学病院

一分一秒を争う救命の現場では、患者さんの命を守ると同時に不安と心配でいっぱいのご家族を支えるケアも重要視されています。どのように家族看護が行われているのか、救命救急センターの副看護師長として働きながら家族看護に力を注いでいる長屋さんに詳しくお話をうかがいました。

命の危機に直面する
ご家族を支える役割

家族看護とは文字通り、患者さんのご家族に対する看護のこと。家族そのものを看護の対象とし、家族がもともと持っているセルフケア⁽¹⁾機能を高めることを目指しています。そもそも看護師は患者さんだけでなくご家族も支える存在ですが、特に救急医療の現場ではその役割はより大きなものだと思っています。なぜならば突然の発症や受傷によって身近な人の生命が脅かされたとき、家族は混乱し、悲嘆にくれ、本来の家族としての機能を失ってしまうことが多々あるからです。患者さんのことを心配するあまり、自身の衣食住さえままならず、疲れ果て、結果的に家族のセルフケア能力を発揮することができなくなるのです。

救命救急センターでは患者さんの命を救うことを最優先に考えていますが、同時に不安を抱えるご家族のケアにも力を注いでいます。命に関わる場面だからこそ、つらい思いを抱えるご家族の支援はより重要性を増すと思っています。患者さんがお亡くなりになるとき、その死を乗り越えて前向きに生きられるように支えることも家族看護のひとつです。

用語解説

- (1) セルフケア 個人が自分自身で健康を管理し、健康維持のために行う諸活動の実践
- (2) HCU 高度治療室。ICU（集中治療室）よりもやや重篤度が低い一般病棟で看護するには難しい患者が入院する病棟
- (3) ICU 集中治療室。診療科を問わず生命の危機にある重症患者や、手術後の患者、急変をした患者を受け入れる病棟

(4) 3次救急

救急医療は重症度に応じて3段階体制をとっている。3次救急は最も重篤な救急患者に対応している

(5) カンファレンス

患者さんに関する情報をそれぞれの担当者が報告し、よりよい医療ケアを提供するために行う打ち合わせ

(6) エンゼルケア

お亡くなりになった患者さんの身体を清潔にし、病気や治療によって生じた外観の変化を目立たないように整える死後のケア

(7) ソーシャルワーカー

患者さんやご家族が抱える経済的・心理的・社会的問題などの相談を社会福祉の立場から援助、支援する人

救急・重篤患者と ご家族を支える 家族看護のチカラ

救命救急センター 副看護師長 長屋 文子さん

東京都立広尾看護専門学校卒業。
1年目より救命救急センターに勤め、
15年目の現在は副看護師長と院内
ドナーコーディネーターを兼任して
いる。「誰からも愛される看護師」
の母に憧れ、自身も
看護師に。



第一線の救命救急の現場で活躍しつつ、看護師1年目から
家族看護に興味を持ち、多くの家族と関わってきた長屋さん。
「大変だけれどやりがいも大きい」と語る、その意味を
実際の事例も交えてたっぷり語っていただきました。
どんな現場でも活かせる、家族看護の意義をお伝えします。

どの患者にも家族がいて、 それぞれの家族の歴史がある

新人の頃は家族看護について特に
意識していませんでしたが、1年目の
ケースレポートで患者さんのご家族
と密接に関わった症例をまとめるつ
ち「看護師の看るべき範囲は家族も
含まれるんだ」と実感しました。それ
からは家族看護に興味を湧き、3年
目を迎えた頃には、最愛の家族や友
人を失って悲嘆（グリーフ）にくれる
人に寄り添い、立ち直れるように支
援するグリーフケアにも関心を持つ
ようになりました。5年目には家族
看護を強みとして活躍できる看護師
になりたいと思うようになりました。
現在は救命救急センターの副看護師
長としてHCU②・ICU③・3次
救急④外来で働きながら、臓器移植
の院内コーディネーターを兼任して
います。どの現場でも、患者さんの生
命の危機に面したご家族の心に寄り
添い、支えることを大事にしています。

ればなりません。悲しみや怒り、不
安などの感情を出さないように耐
えようとする方もいるので、気持ち
を吐き出していいんだと感じても
らえるような姿勢で接することが
大切です。
生命の危機にある急性・重症患者
に接するクリティカルケアの現場
で、新人さんはどうしても身体的
な看護を教わる機会が多くなりま
す。だからこそ私は家族看護の重要
性を教えるようにしています。た
だ、私自身がそうだったように身
を持って体験しないと実感がわか
ないため、まずは受け持った患者さん
のご家族のことを考えるようにし
てもらいます。どの患者さんにもご
家族がいて、家族ごとの歴史がある
と考えるだけで看護の姿勢が変わ
るんですよ。

看護師が適切に関わることに
よってご家族の乱れた生活リズム
が元に戻ったり、家族間で話し合
えるようになって絆を強めたり、さ
まざまな変化が起きてきます。家族が
本来の機能を取り戻していく様
子を見られること、それが家族看護
の最大のやりがいですね。さらに、
看護師はご家族と関わることで患者
さんの「その人らしさ」が理解でき
るようになるため、それを日常のケ
アに活かすこともできます。

コロナと戦う患者さんの ご家族を支えたチーム

コロナ禍の中では、患者さんご
家族のケアを行う専門チームを作り
ました。医師や看護師、ソーシャル
ワーカー①に加え、患者さん・ご家
族と医療者をつなぐ仲介者②メデイ
エーターから成るチームです。

メデイエーターと共にコロナの患
者さんご家族に関わっていた私が
印象深く覚えているのは、とても仲
の良いご家族のこと。ご主人の突然
の入院がショックで、最初はただだ
だ泣き崩れるばかりでしたが、定期
的に電話をして、つらい気持ちを聞
くうちに、病氣と向き合えるようにな
っていったんです。ご主人を応援
したり、私たちは大丈夫だから」と
安心させたり、徐々に家族のセルフ

ケア機能を取り戻していききました。
危機的状況から目をそらしていた家
族が、看護師の介入によって再び絆
を深め、闘病意欲を持つことができ
るようになった事例です。
コロナはつらく悲しい思いを生み
ましたが、同時に家族看護の重要性
を今まで以上に実感させてくれまし
た。タブレット端末を通しての面会
が当たり前のものになったように、
コロナの家族ケアチームの存在が、
センターや病院全体に家族看護を
浸透させました。超クリティカル
のICUでも家族へ目が向けられると
いうことを伝えながら、今後も家族
看護を探索していきたいと思っています。

「こうしてあげたい」という ご家族の願いをかなえる

家族看護の一例として印象深く覚え
ているのは、交通事故で意識不明の重
体になった女性のご家族のこと。お子
さんがまだ2歳と小さく、「ご主人も
女性の2両親も、それこそご家族全員
の「人生が終わった」ように見えまし
た。そこで、それぞれの「想い」をう
かがったところ、お母様からは「きれ
いなままでいさせてあげたい」とのこ
希望があったため、顔マツサージや髪
を結ぶケアと一緒に行っていただきま
した。意思表示が苦手なお父様には
娘さんと二人きりで過ごす時間を作
り、忙しく働くご主人には時間外の早



カンファレンスを通して、ご家族の状況をチ
ームで話し合い、問題解決に取り組み、知識や経
験の違う看護師たちが相互に学びあっている

朝面会を実施。患者さんのために、ご
家族のために、医師と看護師で何度も
カンファレンス⑤を重ね、最善を尽
くせるよう努力を続けました。
残念ながら患者さんはお亡くなり
になりましたが、ご家族からは感謝
の言葉をいただきました。エンゼル
ケア⑥のときに医師が患者さんを慈
しむように丁寧に包帯を巻いていた
ことも忘れられません。一人ひとりの
医療者が真剣に関わり、「コミュニケー
ションをとったからこそ、チーム全員
でご家族の気持ちに寄り添うことが
できたのかなと思います。



タブレット端末を通して面会（患者側）



タブレット端末を通して面会（家族側）

Hospital Data

聖マリアンナ医科大学病院

〒216-8511
神奈川県川崎市宮前区菅生2-16-1
TEL 044-977-9316【担当/人事課】
URL <https://marianna-kango.disc-chc.jp>



Hospital Information

災害拠点病院、がん検診連携拠点病院の機能もち、総合周産期母
子医療センターなど地域の基幹病院として大きな役割を担っています。
2022年度には未来志向型病院へとリニューアルオープンします。
聖マリアンナは、実現に向けた努力するナースを支援します。